

大

煙突とさくらの歴史を次世代へ 旧共楽館で大煙突フェスティバルを開催

2月19日、日立武道館（旧共楽館）で「ひたち大煙突フェスティバル」が開催されました。30年前の同日に倒壊した大煙突やさくらの歴史を若い世代に楽しみながら知ってもらおうと、市民団体「大煙突とさくら100年プロジェクト」が企画したもので、「大煙突とさくらのまち」の紙芝居劇や、倒壊前の大煙突がよみがえるスマートフォンアプリが披露されたほか、参加者が大煙突に向かって「長い食べ物」を食べるイベントなどが行われました。



ス

スポーツ協会設立30周年記念 セルジオさんと関塚さんの講演会を開催

昨年4月1日に財団設立30周年を迎えた日立市スポーツ協会が、2月25日に池の川さくらアリーナで記念講演会を開催しました。サッカー評論家のセルジオ越後さんと、ロンドンオリンピックサッカー日本代表監督を務めた関塚隆さんが、地域スポーツなどをテーマに講演やパネルディスカッションを行いました。来場者はさまざまなプロサッカー選手のエピソードや、自身の経験を交えた2人の貴重な話に聞き入っていました。

地

域の身近な相談役 行政相談員が明秀日立で出前教室

2月16日、明秀学園日立高等学校で行政相談委員による出前教室が開かれました。行政相談委員は、行政サービスに関する市民からの意見や要望などを受けて行政につなぎ、解決に向けた活動を行っています。この日は行政相談委員である岡部雅彦さんが講師となり、委員の活動や身近な行政サービスなどについて説明しました。参加した生徒は「行政相談は堅苦しいものだと思っていたが、講話を聞いて意外と身近なものだと感じた」などと話していました。



地

域と特許庁を結ぶイベント 「つながる特許庁」を日立市で開催

2月8日、日立シビックセンターで、関東経済産業局と特許庁によるイベント「つながる特許庁 in 日立」が開催されました。同イベントは、昨年11月に覚書を締結した日立市・常陸太田市・大子町と関東経済産業局による連携プロジェクトの一環で行われたものです。知財の活用方法やカーボンニュートラルに向けた取組などをテーマに、専門家によるセミナーや市内企業などによるパネルディスカッションが行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

茨

キリ大学生がまちづくりのアイデアを発表 「日立市をより良くしていきたい」

2月18日、茨城キリスト教大学の学生たちが「まちづくり」などをテーマに調査・研究を行う「学生プロジェクト」の成果発表会が行われました。地域活動への参加で独自のポイントがもらえるアプリや市内の中小企業に特化した就活支援アプリの活用など、集まった市の職員や大学教授の前で、5つのグループがそれぞれのアイデアを発表しました。学生たちは「プロジェクトなどを通して、日立市をより良くしていきたい」と、熱意を込めて話していました。



道

路で倒れる男性を保護 駒王中生徒が警察署長から感謝状

駒王中学校の2年生4人（右から鳥谷将央さん、遠藤悠夏さん、大滝彩華さん、瀧 朱莉さん）が、交通事故防止に貢献したとして、日立警察署長から感謝状を贈呈されました。4人は1月18日の下校中、道路で怪我をして倒れている高齢男性を発見。意識はあったものの、そのままでは危険と判断し、近くの薬局まで男性を運ぶなど安全を確保しました。4人は「勇気を出して声をかけた。助けられてよかった」と当時を振り返りました。

日

立市オリジナルの職業探検少年団 合同修了証授与式を実施

2月12日、ゆうゆう十王・Jホールで、日立市職業探検少年団の合同修了証授与式が行われ、各少年団の代表者が修了証を受け取りました。農業や観光、ものづくりなど、さまざまな職業を「見て」「聞いて」「体験できる」職業探検少年団。今年度は、11の少年団で167人の子どもたちが活動してきました。同少年団本部の秋山光伯本部長は「少年団で学んだことは人生の財産となる。これからの生活に生かしてほしい」と団員たちを激励しました。



子

子どもたちの今年度の活躍を表彰 青少年健全育成のための市民の集い

2月23日、日立市民会館で青少年健全育成のための市民の集いが開かれ、さまざまな分野で活躍した児童・生徒の表彰が行われました。集いの最後には「日立市少年の主張・体験文」で市内最優秀賞（小学生の部）を受賞した大沼小学校の諸橋和可子さんが、子どもだけでまちをつくるイベント「こどものまち・ひたち」に参加したことについての作文を発表しました。諸橋さんは「受賞できるとは思っていなかった。本当にうれしいです」と受賞の喜びを話しました。